

トビウオ通信 (R6 第1号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和5年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和5年漁期前半(令和5年8月～12月)の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業(かけまわし)」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業(2そうびき)」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業(かけまわし)

1隻当り漁獲量は平年を下回るが金額は平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業(かけまわし)37隻の令和5年漁期前半(令和5年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,408トン、総水揚金額は8億6,820万円でした。1隻当り漁獲量は38トンで平年を17%下回りましたが、水揚金額は2,346万円です(平年並みでした(平年値:46トン、2,190万円))。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチは1隻当り漁獲量が3.7トンで前年・平年の6割の水揚げとなり、前漁期以降、急減傾向にあります。ムシガレイは1隻当り漁獲量が1.2トンで、前年の1.1倍、平年の7割の水揚げでした。メイタガレイは1隻当り漁獲量が0.2トンで、前年の6割、平年の3割の水揚げでした。

ケンサキイカ、ヤリイカともに好調

ケンサキイカは1隻当り漁獲量が1.0トンで、令和元年漁期以降4期続いた不漁から好転し、前年の3.4倍、平年の1.3倍の水揚げでした。ヤリイカは1隻当り漁獲量が3.2トンで、前年・平年を上回る好調な水揚げでした(前年の2.0倍、平年の1.2倍)。

アカムツ、ニギス、アンコウ類は平年並み、キダイは下回る

アカムツは1隻当り漁獲量が2.0トンで、前年の1.4倍、平年並みの水揚げとなり、減少傾向が続いていた前年から上向きに転じました。ニギスは1隻当り漁獲量が4.0トンで、前年の1.1倍、平年並みの水揚げとなり、ここ5年間は堅調に推移しています。アンコウ類は1隻当り漁獲量が4.6トンで、前年の7割、平年の9割の水揚げとなり、令和元年から2年漁期にかけて急増しましたが、ここ3年間は減少傾向にあります。一方、キダイは1隻当り漁獲量が2.9トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年・平年の8割)。

その他、アナゴ類は1隻当り漁獲量が2.5トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年・平年の7割)。マダラは1隻当り漁獲量が1.4トンで、前年並み(前年の1.1倍)で、平年の5割に留まる低調な水揚げでした。

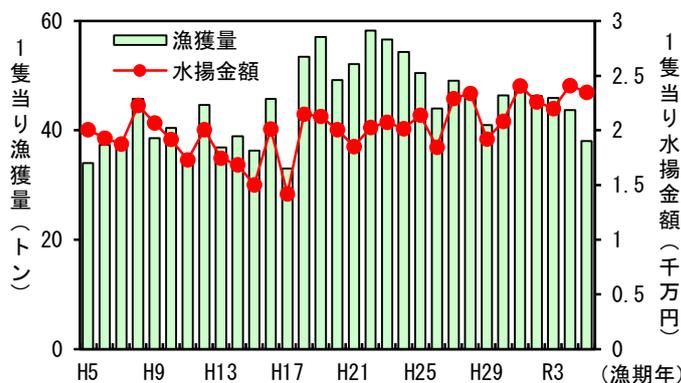


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の9月～12月)

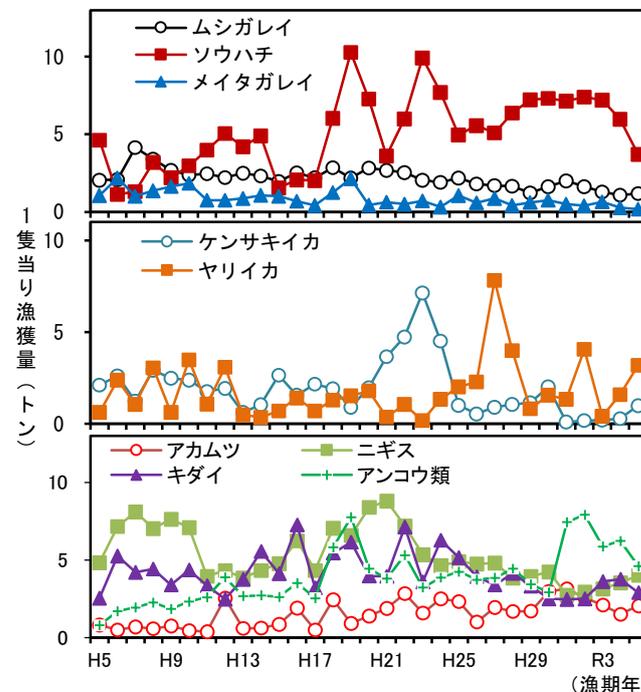


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の9月～12月)

<文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年[平成25年漁期～令和4年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業 (2 そうびき)

1 統当り漁獲量は平年を下回るが金額は上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(2 そうびき)4 統(8 隻)の令和5年漁期前半(令和5年8月16日～12月31日)の総漁獲量は1,011トン、総水揚金額は8億6,459万円でした。1統当り漁獲量は253トンで平年を19%下回りましたが、水揚金額は2億1,615万円で平年を25%上回りました(平年値:311トン、1億7,253万円)。

ムシガレイ・ソウハチともに平年を下回る

主要魚種であるムシガレイの1統当り漁獲量は平成21年漁期以降、長期的な減少傾向にあり、今期は11トンで、前年の6割、平年の3割と低調な水揚げでした。ソウハチの1統当り漁獲量は、ここ5年間は減少傾向にあり、今期は8.0トンで、前年の8割、平年の4割と低調な水揚げでした。ヤナギムシガレイは1統当り漁獲量が7.4トンで、前年並み、平年の9割の水揚げでした。

ケンサキイカは久しぶりの好調、ヤリイカは低調

ケンサキイカは1統当り漁獲量が17トンで、前年の2.8倍、平年の1.5倍となり、令和元年漁期以降4期続いた低調な漁模様から一転し、久しぶりに平年を上回る水揚げでした。一方、ヤリイカは1統当り漁獲量が1.7トンで、前年の8割、平年の2割と低調な水揚げでした。

キダイは好調、アカムツは平年を下回る

キダイは1統当り漁獲量が45トンで、平成元年漁期以降で過去最高を記録した前年は下回りましたが、平年を上回る好調な水揚げが続いています(前年の6割、平年の1.1倍)。アカムツは1統当り漁獲量が25トンで、前年・平年の8割の水揚げとなり、2年続けて前年を下回りました。

ニギスは1統当り漁獲量が1.0トンで平年の3割、アンコウ類は1統当り漁獲量が12トンで平年の6割、アナゴ類は1統当り漁獲量が30トンで平年の1.1倍の水揚げでした。

その他、今漁期はマダイが安定的に漁獲され、1統当り漁獲量は21トンで、平年の1.9倍の水揚げでした。

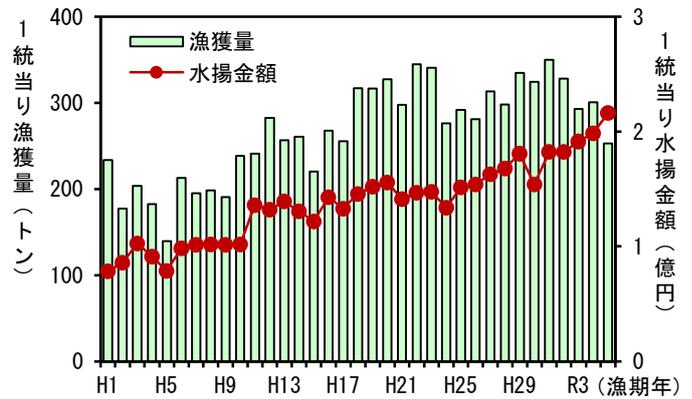


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の8月～12月)

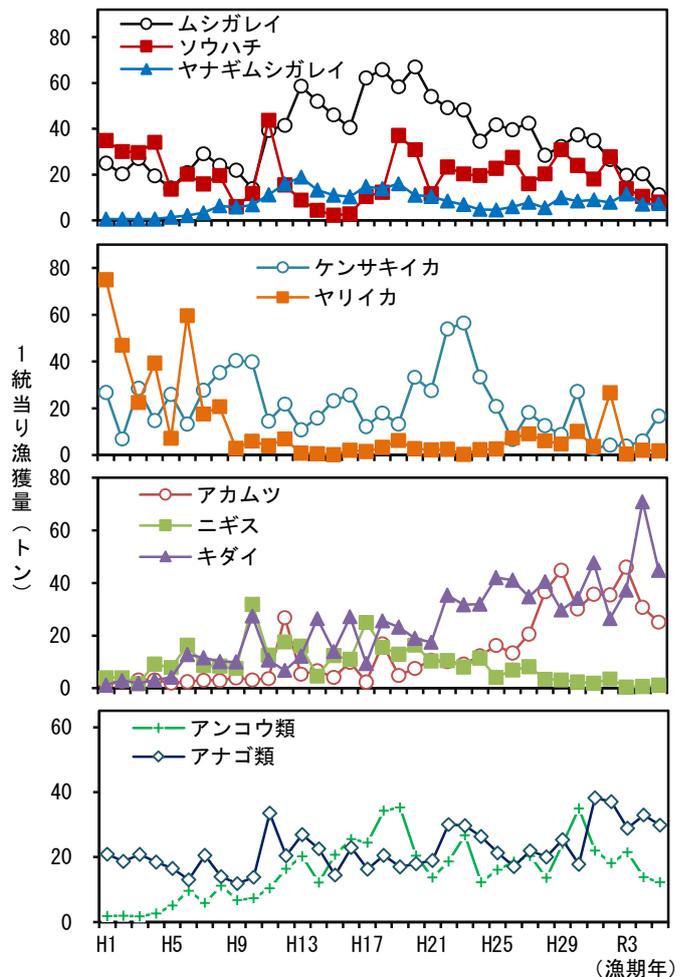


図4 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の8月～12月)